

だい し お い り  
大すき汐入がつこう  
2月号ゆめ かな ことば  
「夢は叶う」という言葉をいただいてこうちょう おぐろ ゆうこ  
校長 小黑 裕子

寒暖差、日々こんなにもあるのかと驚かされます。1年生の鉢の球根もあわてて花を咲かせているかのようです。「私のヒヤシンス、咲いた。」「ぼくのはいつ咲くのかな。」と、自分の鉢の様子を気にかけ、世話を欠かしません。この頃は強風も多いです。プラごみがいくつも空を舞って学校の方に入ってきた日の休み時間、私が拾い始めると、4年生の子どもたちが続いて拾い始めました。総合の時間に取り組んだ「スポごみ」を機に、ごみ問題にさらに関心をもち、ごみを進んで拾うようになったのです。日々の学びが子どもたちの思いや願い、行動に結びつくことを感じています。

さて、子どもたちが夢や目標を見出し、チャレンジする気持ちを後押ししてくれる大人は身近にもたくさんいますが、今年は続けてトッポアスリートからのメッセージをいただきました。子どもたちは自分たちを応援して下さる人の存在を知り、自分の夢や目標を考えることができました。

1月末にはアメリカのプロ野球界で活躍する大谷翔平さんから、子どもたちに「夢を与え、勇気づけるシンボル」になってほしいというグローブをいただきました。そのグローブで6年生の代表児童が、「朝スポーツ」の時間にキャッチボールを披露しました。紹介した大谷翔平さんの高校時代の目標シートにならない、夢や目標に向かい具体的な取組を考えて実行している人もいるでしょう。

さらに、2月27日には元プロサッカー選手、現サッカー指導者の安英学さんをお招きし、「夢は叶う」というテーマで講話をしていただきました。5・6年生のサッカーの試合では、安さんは子どもたちに交じって攻撃につながるパスを出してくださり、仲間と一緒につながり楽しさを味わわせていただきました。そのあと、全校児童に向けて子どもたちへのお話では、大好きだから小学生からサッカーを大変だと思ふことはなく楽しかったこと、うまいかないときは自分の良くなかったことを振り返り他のせいにするとはなかったこと、いったんやめてしまったら成長していない自分に気づいたこと、サッカーをまたやってみないかと声をかけてもらった人に感謝していること、Jリーグに入りたい夢が叶った後はワールドカップに出る夢を叶え、次はヨーロッパでサッカーをする夢をもち、・・・と夢をもち続け実現に向けて諦めなかったことなど、夢に向かう中での出来事や思いをお話しして下さったからこそ、「夢は叶う」という言葉は私たちの心に強く響き、明るい元気な声でお礼の挨拶や拍手ができました。終わりの言葉での代表の6年生は、自分の夢をもち、叶えるための大きな力をいただけて、気持ちを込めて堂々と発表していました。

今年度も汐入の子どもたちのためにお力をくださった皆様、誠にありがとうございました。様々な人と関わる活動や励ましの言葉で子どもたちの未来は広がっていきます。これからも私たち大人も協力して大いにがんばりましょう。